

【全体概要】

高齢者でも栽培できる新たな作物として、スイーツの材料や肉料理の付け合わせとして人気のあり、道内では栽培例が少ない食用ほおずきの実証栽培に着手。品種は長野県で栽培実績のある「太陽の子」を主力として選定。収穫期間が短い北海道においても収量を確保し、秀品率を高めるための栽培方法の確立を図る。また加工品製造により地域ブランド化を目指す。

新品種・新技術等の概要

■食用ほおずき

・「太陽の子」長野県諏訪郡富士見町の民間農園で6年間かけて栽培方法を確立した。現在、同町を中心に栽培されている。

・H26年度は、「太陽の子」のほか、「スイートパール」を試験的に栽培したが、スイートパールは風雨により熟期前の落果が多く土壌の過湿で成長が阻害され、収量も大きく低下したことから、27年度は「太陽の子」に絞って栽培予定。



主な取組内容

■「太陽の子」及び「スイートパール」の2種を、合計6aで実証試験。

成長度合いや着果数、重量、収量、糖度等の測定。

■日高町に適した「栽培マニュアル」を作成。

■「コンソーシアム候補」の構成員である、地元高校生からの意見をもとに、食品製造業者がジャム1点とスイーツ2点を製造。

食用ほおずき 栽培マニュアル



平成26年9月

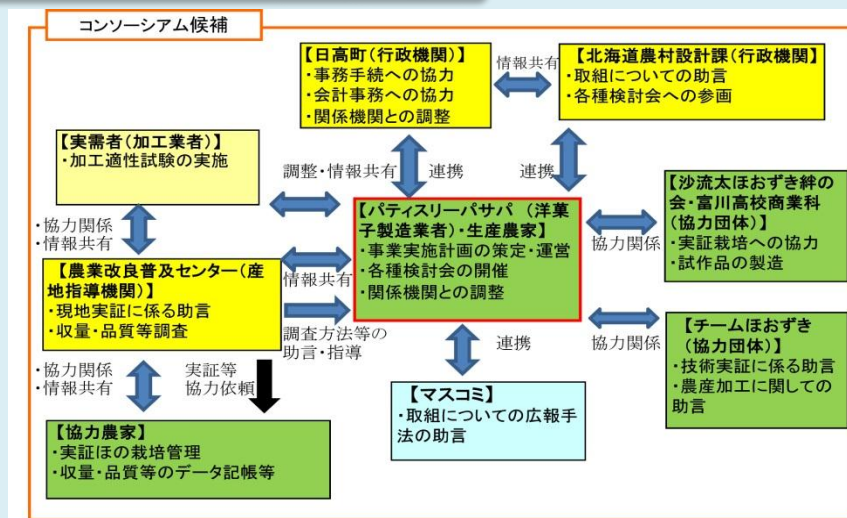
日高町食用ほおずき生産協議会

ジャム

シュークリーム

カタラーナ

コンソーシアム候補の体制図



課題と今後の対応

1年目(平成26年度)

- ・土壌の窒素過多による果実の登熟の遅れと多湿による裂果が発生。
- ・土壌分析を実施し、稲わらのすき込みや施肥設計を改善する。
- ・高畝により裂果の発生を低減する。

2年目(平成27年度)

- ・秀品率を高める栽培技術を確認する。
- ・産地と実需者であるレストラン、菓子製造業者等とのマッチング件数を拡大する。
- ・加工品製造に重点を移し、加工品の商品化に目途をつける。